

New!

分化誘導ペプチドW9

Differentiation inducing peptide W9

W9ペプチド(WP9QY)は、9個のアミノ酸から構成される環状ペプチドです(1)。W9ペプチドは、破骨細胞形成抑制作用を持つことが既に報告されていますが(2)、この度、新たに骨形成作用及び軟骨修復作用を有することを見出しました(3)(4)。マウス骨芽前駆細胞MC3T3-E1細胞にW9ペプチドを添加することにより、ALP活性亢進や石灰化を誘導できます。

本製品は上記活性を有するペプチド溶液として調製されていますので、バイオアッセイにそのまま使用することができます。

製品名	製品番号	サイズ	価格(円、税別)
分化誘導ペプチドW9	47030900	1 mg × 2本	¥30,000

* バルク注文については営業所、ホームページまでお問い合わせ下さい。

* 本品は研究用試薬であり、医薬品では御座いません。

製品仕様

製品形態:	: ペプチド溶液
溶媒	: PBS (-)
保存条件:	: 冷凍 (-70℃以下)
濃度:	: 10 mg/mL 以上
品質規格:	: MC3T3-E1細胞でのALP活性亢進
エンドキシンレベル	: < 0.1 EU/μg
容量:	: 1 mg x 2本

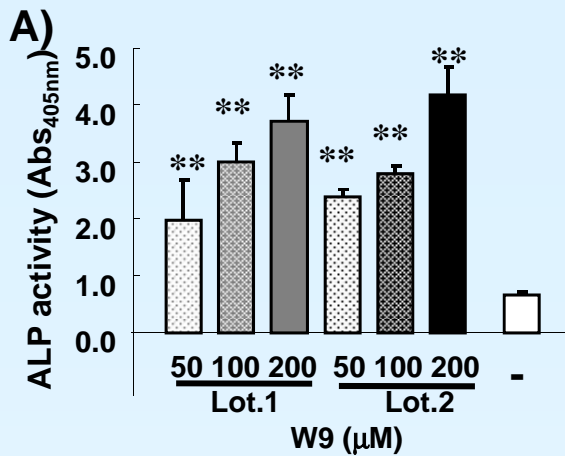
※本製品はロット毎に製品仕様項目を品質確認済みです



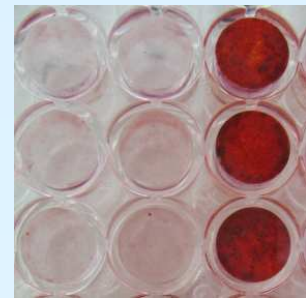
- 使用上の注意 :
- ① 恒温槽(37℃)などを用い1~2分程度で素早く融解させ、融解後はすみやかにご使用下さい。
 - ② 凍結融解は1回までとし、再度凍結保存する場合は25 μL以上の容量で分注し、-70℃以下で保存して下さい。
 - ③ 上記の方法で融解した場合にも、溶液がやや濁ることがありますが、生物活性には影響ありません。
また、細胞培養に本製品を使用された場合、細胞上に沈殿物が見えることがありますが、活性に影響はありません。



オリエンタル酵母の研究用試薬・抗体



B)



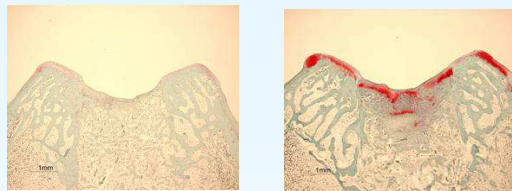
- negative W9 peptide peptide

MC3T3-E1細胞を播種後、コンフルエント状態でW9ペプチドを添加した。120時間培養後にアセトン・エタノール固定を行い、PNPP溶液を添加した。経時的にALP活性をAbs405nmにて測定した。

** : $p < 0.01$ vs. control (Dunnett's test)

MC3T3-E1細胞を播種後、コンフルエント状態でW9ペプチドを添加した。3-4日毎に培地交換を行い、3週間培養を行った。ホルマリン固定後にアリザリンレッド染色を行った。

C)



Vehicle

W9

ウサギ軟骨欠損モデル(JW 25週齢)にコラーゲン基材を埋め込み、W9ペプチド溶液を週1回で5mg関節腔投与した。2週間投与後に剖検を行い、組織を固定後にスライドを作製した。図はサフラニンO染色の結果

参考文献

1. Takasaki W, et al. Nature Biotech. (1997) 15, 1266-1270.
2. Aoki K, et al. J Clinical Invest. (2006) 116, 1525-1534.
3. 特許出願 WO2008/150025, WO2010/038610
4. Furuya Y, et al. JBC (2013) 288, 5562-5571.

www.oyc-bio.jp



オリエンタル酵母工業株式会社

お客様窓口

<http://www.oyc-bio.jp/inquiries/add>

バイオ事業本部

Tel. 03-3968-1192 Fax. 03-3968-4863



FM 541481 / ISO 9001

営業部

東日本バイオ営業部

Tel 03-3968-1163 Fax 03-3968-1196

西日本バイオ営業部

Tel 06-6338-1095 Fax 06-6384-7692

㈱オリエンタルバイオサービス

Tel 075-322-1177 Fax 075-322-0232

㈱ケーピーティーオリエンタル

Tel 0942-81-2400 Fax 0942-81-2401

取扱店